

感染症アウトブレイクと報道

南 直樹

日本放送協会 解説委員室

(1) SARSの制圧と報道の役割 SARSの発生拡大を防止する上で、医療技術と行政組織のはたす役割は大きいですが、それだけでは征圧することは難しい。特に、SARSのワクチンと治療法が確立していない段階では、市民が、自ら予防のために基本的な衛生知識を実行し、集団発生の際には公衆衛生対策に協力することが必要となる。そのために、感染症情報の受け手であり、送り手である報道機関がはたすべき役割がある。(2) 中国での流行拡大と報道 中国のSARS流行の経過は、人々が切実に情報を求めているときに、それに応える十分な情報を提供しなければ、流言飛語の拡大をまねき、社会的パニックを引き起こすことを示した。中国での最初のSARSの発生から、病原体が新型コロナウイルスと確定するまで、ちょうど5ヶ月を要した。中国政府が2002年11月の段階から情報を公表し、WHOに支援を求めていれば、研究のペースは速まり、感染防止対策についての医療関係者や市民の啓発もすすみ、感染が世界に急速に拡がることはなかったと考えられる。(3) 日本のSARS報道 日本のSARSに関する報道で、大きな比重を占めたのは、海外の発生状況と経済・社会に与えた影響、この新興感染症の病原体、感染様式、診断法、予防と治療についての研究の進捗状況などで、それぞれ強い関心を集めた。さらに、SARSの発生拡大を防ぐために、報道が果たすべき役割は、日本の感染症予防の体制がかかえる問題を把握し、改善を提起することだった。(4) 流行再発に備える 日本では、SARSが感染症法の一類感染症となり、自治体に対する国の役割が強化された。保健・医療の体制は、2003年時点に比べれば拡充してきているとはいえ、さらに整備する必要がある。今後SARSが再び流行した場合、感染の拡大を防止し、社会的な不安の増幅を避けるためには、プライバシーの保護や、風評被害の防止に配慮をしつつ、情報を公開することが重要である。

---

Infectious disease outbreak and press reports

NAOKI MINAMI

News Commentators Division, Japan Broadcasting Corporation, Tokyo, Japan